

臨床研究の実施に関する情報公開

静岡県立総合病院では、臨床研究倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。
関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

研究の拒否	患者さん又は患者さんの代理の方が、この研究のために試料・情報が使用されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。
研究課題名	急性期病院の入院患者における院内転倒を予測する予測因子の同定とその予測モデル開発のための後ろ向きコホート研究
研究機関名	静岡県立総合病院
研究責任者	看護部 外来東 看護師 齋藤千紘
研究期間	研究機関の長による承認日から2026年3月まで
対象者	2019年4月1日より2022年12月31日までの間に当院に入院された、入院時20歳以上の患者さんを対象にしています。
当該研究の意義・目的	<p>わが国における高齢化率は、2019年に28.4%となり過去最高を記録しています。とりわけ高齢者は、加齢に伴う筋肉量の低下や日常生活動作の低下からも、転倒を起こしやすい状況にあります。このような背景から、急性期病院に入院する患者さんは転倒のリスクが高い方が増加していくことが予測されます。入院患者さんの転倒は、身体の損傷や生活機能の低下だけでなく、入院期間の延長や医療費の増大にも影響することも少なくないため、転倒を予防する対策は当院でも重要な課題となっています。</p> <p>今回の研究では、急性期病院に入院する患者さんの背景などをふまえて、転倒に関連する因子を再確認することを目的としています。合わせて、転倒を予測する因子を明らかにすることで、急性期病院に入院する患者さんの転倒を予測するモデルを構築したいと考えております。</p>
方法および研究で利用する試料・情報について	<p>対象となる患者さんの診療録（カルテ）から次の情報を調査します。</p> <ul style="list-style-type: none">・年齢、性別、身長、体重、BMI、既往歴、要介護区分・入院歴、入院病名、入院診療科、入院期間、入院方法、紹介の有無・入院時の体温、血圧、心拍数とリズム、呼吸数、酸素飽和度など・障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）・認知症高齢者の日常生活自立度判定基準・入院時の日常生活動作の状態、治療の状態、身体・精神症状・内服中の薬剤の種類と数、眠剤内服の有無と種類、内服管理状況・入院時に看護師や薬剤師が実施する種々のスクリーニング項目（薬剤、身体拘束、転倒、高齢者総合機能評価など）・電子カルテの掲示板内容（転倒の既往、危険行動、身体障害など）

	<p>(以下、入院中に転倒した患者さんのみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転倒発生報告書の記載事項 ・転倒前直近の寝たきり度、認知症高齢者の日常生活自立度
個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の間合せ先にご相談ください。
関連した研究課題について	この研究で得られた試料や情報は、将来の関連した研究課題において再度使用する可能性があります。その場合には、改めて研究計画書を提出して倫理審査の承認を得たうえで行います。倫理審査が終了した研究課題については、随時ホームページに公開いたします。
資料の閲覧について	あなたからのご要望があれば、この研究において開示が可能であると考えられる範囲内で、この研究の計画や方法についての資料をご覧いただくことができます。
間合せ先	<p>◆その他、この研究に関するお問合わせ、苦情等ございましたら下記へご連絡ください。</p> <p>静岡県立総合病院 看護部 外来東 看護師 齋藤千紘 054-247-6111 (代表)</p>